

医薬品

登録販売者

試験対策

漢方薬攻略

テキスト



目からウロコの学習法

株式会社 東京マキア

医薬品登録販売者 試験対策

漢方薬 攻略テキスト

株式会社 東京マキア



学習を始める前に

漢方薬の効能・効果を、漢方薬の名前や生薬の働きとリンクさせて覚えられとしたり、楽だと思いませんか？これが本テキストのテーマです。

登録販売者試験での漢方薬の出題は年々増加・難化傾向があり、漢方薬の点数が合否を左右することも少なくありません。近年の試験では「試験作成の手引き（以下、手引き）」の記述をアレンジした出題も見受けられます。このような問題は「その漢方薬が適した人」をイメージしておく、冷静に解くことができます。たとえば以下は、令和2年度の関西広域連合の問33です。

35歳女性、咳と咽喉・食道部の異物感の症状に良い漢方処方製剤はないかドラッグストアに相談にいられた。状態や症状を確認したところ、体力は中等度で、虚弱体質でもなく、比較的神経質で胃腸が弱く、足にむくみがあることがわかった。最も推奨すべき漢方処方製剤を一つ選べ。（答えは一番下）

1. 半夏厚朴湯 2. 柴朴湯 3. 麻杏甘石湯 4. 神秘湯 5. 五虎湯

生薬・漢方薬が苦手な受験生はたくさんいます。なぜ多くの受験生がそのように感じるのでしょうか。理由としては、手引きに載っている「生薬の働き」と「漢方薬の働き」がリンクしていないことが挙げられます。そうすると、生薬と漢方薬の働きをそれぞれ独立した知識として覚えることになり、勉強量が膨大になってしまいます。つまり、苦手を感じる皆さんに何か問題があるのではなく、試験のコンセプトがそうさせてしまっているということです。

漢方薬を覚える時に、手引きに書いてある生薬の知識が活かせないのはなぜでしょうか。第一に、手引きには漢方薬の「効能・効果」は載っていますが、「構成生薬」までは載っていないことが挙げられます。すると漢方薬の中身が分からないまま結論のみを覚えることとなります。

「なぜそうなるのか？」という理由がないまま行う暗記は、なかなか大変ですよ。

第二に、漢方薬は生薬の集合体ですが、その効能・効果は、単純に生薬の持つ作用を足していったものではないことが挙げられます。漢方医学では「薬理作用」とは別に、個々の生薬が持つ作用を「薬能」という表現で説明することがあります。「薬能」とは経験的に知られた作用のことで、たとえばマオウには「薬理作用」として**気管支拡張作用**がありますが、花粉症による鼻水を止めるのに用いる「小青竜湯」の中でのマオウの役割はそれだけでは説明できません。漢方医学では、体の冷えからくる体内の水分の停滞がある状態だと考え、マオウは**体を温めることにより余計な水を汗として外に出す**役割があるとされます。また、生薬は組み合わせる生薬によって引き出される「薬能」が変わるため、漢方薬の中での生薬の主な役割も処方ごとに変化します。

手引きでの生薬の効能の説明は、非常に端的に示されている（もしくは不足している）ため、それを寄せ集めても漢方薬の効能・効果にはなりません。そこで本テキストでは、各漢方薬の中で**キーとなる生薬の働きを説明し、どのような漢方薬なのかを連想できるように**しています。漢方医学では、気、血、水、温める、冷やすなどの独特な表現があり、慣れるまでに少し時間がかかるかもしれませんが、できるだけ簡潔に説明していますので、少しずつ学習を進めていきましょう。本テキストが皆さまの試験合格の一助となることを、心より願っております。

登録販売者試験は、「試験問題作成に関する手引き」を基に作成されます。つまり試験問題はここから出題されます。



㈱東京マキアの YouTube チャンネル、「やっけんちゃんねる」もぜひご利用ください（音が出るのでご注意ください）。



※答えは1。咳と咽喉・食道部の異物感の症状や、神経質や胃腸が弱いなどの体質から1と2に絞り、むくみがあるためカンゾウの入っていないものを選ぶ。

目次

| | |
|---|--------|
| ●学習を始める前に | |
| ●生薬と漢方薬 | 4 ページ |
| ●最重要生薬 | 4 ページ |
| ●漢方薬を理解するための予備知識 | |
| ①しばり（使用制限） | 6 ページ |
| ②漢方薬の副作用 | 8 ページ |
| ③漢方薬の基本処方 | 9 ページ |
| ●漢方薬データの見方 | 9 ページ |
| ●漢方薬データ | |
| かぜの症状 | 10 ページ |
| - 桂枝湯、葛根湯、麻黄湯、小青竜湯、小柴胡湯、柴胡桂枝湯、香蘇散 | |
| 痛みの症状 | 13 ページ |
| - 芍薬甘草湯、桂枝加朮附湯、薏苡仁湯、疎経活血湯、当帰四逆加呉茱萸生姜湯、釣藤散、呉茱萸湯 | |
| せきの症状 | 17 ページ |
| - 麦門冬湯、半夏厚朴湯、柴朴湯、麻杏甘石湯、五虎湯、神秘湯、甘草湯 | |
| のどの症状 | 20 ページ |
| - 桔梗湯、驅風解毒散、白虎加人参湯、響声破笛丸 | |
| 胃の症状 | 22 ページ |
| - 安中散、人参湯、平胃散、六君子湯 | |
| 腸の症状 | 24 ページ |
| - 桂枝加芍薬湯、大黃甘草湯、大黃牡丹皮湯、麻子仁丸 | |
| 痔の症状 | 26 ページ |
| - 乙字湯、芍帰膠艾湯 | |
| 循環器の症状 | 27 ページ |
| - 苓桂朮甘湯、三黄瀉心湯、七物降下湯 | |
| 精神・神経症状 | 29 ページ |
| - 酸棗仁湯、加味帰脾湯、柴胡加竜骨牡蛎湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、抑肝散、小建中湯 | |
| 泌尿器の症状 | 32 ページ |
| - 六味丸、八味地黄丸、牛車腎気丸、猪苓湯、竜胆瀉肝湯 | |
| 婦人の症状 | 34 ページ |
| - 温経湯、温清飲、加味逍遙散、桂枝茯苓丸、五積散、柴胡桂枝乾姜湯、四物湯、桃核承気湯、当帰芍薬散 | |
| アレルギーの症状 | 39 ページ |
| - 十味敗毒湯、消風散、当帰飲子、荊芥連翹湯、葛根湯加川芎辛夷、辛夷清肺湯、茵陳蒿湯 | |
| 滋養強壯 | 42 ページ |
| - 十全大補湯、補中益気湯 | |
| その他の症状 | 43 ページ |
| - 黄連解毒湯、防己黄耆湯、防風通聖散、大柴胡湯、清上防風湯 | |
| 皮膚の症状（外用薬） | 46 ページ |
| - 紫雲膏、中黄膏 | |
| ●頻出生薬図鑑 | 47 ページ |
| ●一問一答 練習問題 | 53 ページ |
| ●生薬一覧表 | 57 ページ |
| ●漢方薬一覧表 | 61 ページ |

③漢方薬の基本処方

漢方薬は、「基本処方」と呼ばれる漢方薬に生薬を足したり引いたりして、別の漢方薬となっていることがあります。「基本処方」の効能を頭に入れておくと、どのような意味を持つ漢方薬なのかがスムーズに理解できます。3つの重要な「基本処方」について確認しましょう。

(a) 四物湯（しもつとう）→37 ページ参照

- ◆ 構成生薬: トウキ(当帰)、シャクヤク(芍薬)、センキュウ(川芎)、ジオウ(地黄)
- ◆ 血が不足した**血虚**に対する基本的な方剤で、**肌が乾燥して色つやの悪い人の冷えや貧血**に用いられる。
- ◆ 四物湯がベースになっている漢方薬の例: 疎経活血湯、七物降下湯、芍帰膠艾湯、当帰芍薬散



(b) 四君子湯（しくんしとう）→手引きへの記載なし

- ◆ 構成生薬: ソウジュツ(蒼朮)、ニンジン(人參)、ブクリョウ(茯苓)、カンゾウ(甘草)、ショウキョウ(生姜)、タイソウ(大棗)
- ◆ 気が不足した**気虚**に対する基本的な方剤で、**疲れやすい人の胃腸虚弱**に用いられる。
- ◆ 四君子湯がベースになっている漢方薬の例: 六君子湯、補中益気湯、加味帰脾湯
- ◆ 四物湯と四君子湯の両方がベースになっている漢方薬の例: 十全大補湯



(c) 桂枝湯（けいしとう）→10 ページ参照

- ◆ 構成生薬: ケイシ(桂枝)、シャクヤク(芍薬)、ショウキョウ(生姜)、タイソウ(大棗)、カンゾウ(甘草)
- ◆ **体を温めて軽く発汗させ、熱や痛みを発散させる**作用があり、虚証のかぜの初期に用いられる。
- ◆ 桂枝湯がベースになっている漢方薬の例: 葛根湯、柴胡桂枝湯、桂枝加竜骨牡蛎湯、小建中湯



漢方薬データの見方

次ページから、各漢方薬のデータを載せています。データの見方について確認しましょう。

手引に記載のある漢方薬の効能・効果です。キーワードに線が引いてあります。

体力の「しぱり」が図式化されています。

構成生薬※ です。カンゾウ、マオウ、ダイオウ、キーとなる生薬を色分けしています。別の漢方薬を含んでいる場合は、生薬名に色を付けています。

漢方名は効能のヒントになります。

この漢方薬を端的に説明しています。

大まかに、このような人に向くという目安になるイラストを入れています。

【手】は、その生薬に関する手引きの記載です。
【手】がっていない文章は、この漢方薬を理解するための補足の説明です。登録販売者試験では手引きの記述を中心に出题されますので、覚える必要はありませんが、手引きの記述を理解するために必要な情報を載せています。

※構成生薬：柴胡加竜骨牡蛎湯は小太郎漢方製薬(株)、駆風解毒湯と響声破笛丸は北日本製薬(株)、そのほかは(株)ツムラの添付文書を元に作成しました。メーカーにより配合比や種類が異なることがあります。

かぜ 桂枝湯 けいしとう

汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。

【名前の由来】

◆ ケイシ（桂枝）が中心の薬であることから。

【ポイント】

◆ キーとなる生薬：ケイヒ（桂皮）

手クスノキ科のシンナモム・カシアの樹皮又は周皮の一部を除いたものを基原とする生薬で、**発汗を促して解熱を助ける**作用がある。また、香りによる**健胃作用**を期待して用いられる。

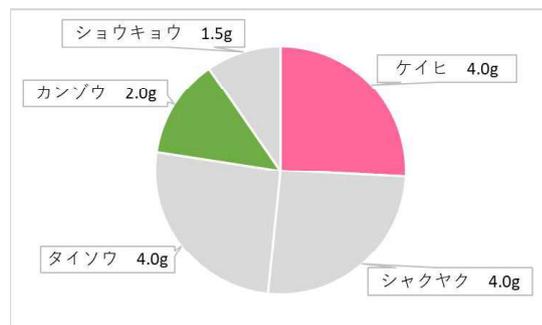
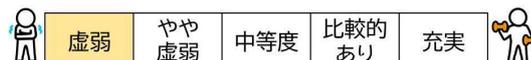
◆ ケイヒとはシナモンのことである。

◆ 虚弱体質の人がかぜをひくと、体温が充分に上がりきる前にじわじわと**汗が漏れ出てしまう**。桂枝湯はそのような人に向く薬で、軽い**発汗作用**があり、**体の熱や痛みを発散する**。疲れやすく胃腸が弱い人や高齢者のかぜの初期に用いられる。

◆ 葛根湯や麻黄湯とともに辛温解表薬（辛味温性の薬を用い、発汗させることで熱や痛みをとる薬）の一つである。

【かぜの初期症状の傾向】

| 体力 | 自然発汗 | 主な症状 |
|--------|------|------------------------|
| 体力のない人 | あり | 微熱、頭痛、悪寒、軽いうなじのこわばり |
| 体力のある人 | なし | 高熱、頭痛、強い悪寒、肩こり、筋肉痛、関節痛 |



【ざっくり言うとこんな漢方薬】
体力虚弱な人のかぜの初期に用いられる薬。様々な漢方薬の基本処方である。

ケイヒ
軽く発汗させる



かぜ 葛根湯 かつこんとう

感冒の初期（汗をかいていないもの）、鼻かぜ、鼻炎、頭痛、肩こり、筋肉痛、手や肩の痛みに適すとされる。

✓ 不向きな人：体の虚弱な人、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人

✓ 重篤な副作用：肝機能障害、偽アルドステロン症

【名前の由来】

◆ カッコン（葛根）が中心の薬であることから。

【ポイント】

◆ キーとなる生薬：カッコン

手カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、**鎮痙**等の作用を期待して用いられる。

◆ カッコンは**筋肉の痙攣を鎮め肩の凝りをほぐす**作用があるとされる。

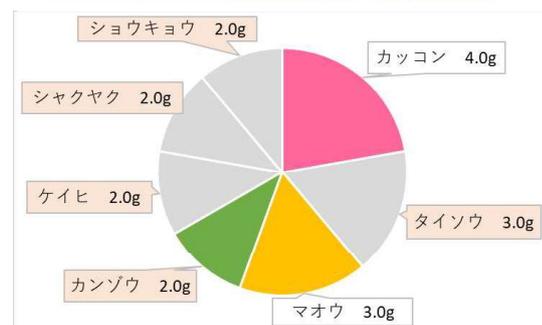
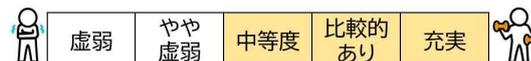
◆ 葛根湯は桂枝湯にカッコンとマオウを加えた薬で、体力中等度以上の汗をかいていない人に向く。マオウはケイヒと合わせると発汗作用が増強し、葛根湯は体を温め**汗をかかせて解熱させる**。寒気がして熱が出始めたタイミングで服用し、汗をかいたら服用を中止する。

【かぜの初期に用いられる漢方薬の体力の違い】

桂枝湯
体力虚弱

葛根湯
体力中等度以上

麻黄湯
体力充実



【ざっくり言うとこんな漢方薬】
桂枝湯にカッコンとマオウを加えた薬で、体力中等度以上の人のかぜの初期に用いられる。

桂枝湯

体力虚弱な人のかぜの初期に使う

カッコン
痙攣を鎮める

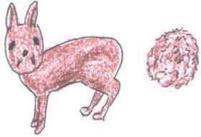
マオウ
発汗させる



頻出生薬図鑑

①小児鎮静薬、強心薬

ジャコウ（麝香）



- ◆ 基原：シカ科ジャコウジカのオス
- ◆ 使用部位：麝香腺分泌物

ジンコウ（沈香）



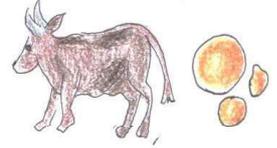
- ◆ 基原：ジンチョウゲ科ジンコウ
- ◆ 使用部位：辺材の材質中に黒色樹脂が沈着した部分

レイヨウカク（羚羊角）



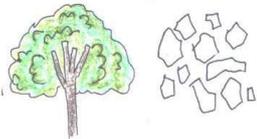
- ◆ 基原：ウシ科サイカレイヨウ
- ◆ 使用部位：角

ゴオウ（牛黄）



- ◆ 基原：ウシ科ウシ
- ◆ 使用部位：胆嚢結石

リュウノウ（竜腦）



- ◆ 基原：フタバガキ科リュウノウジュ
- ◆ 使用部位：樹脂

【こんな商品があります】

宇津救命丸

<効能・効果>

小児の疳、疳虫、夜なき、ひきつけ、下痢、消化不良、食欲不振、胃腸虚弱、乳はき

<成分>

ジャコウ、ゴオウ、レイヨウカク、牛胆、ニンジン、オウレン、カンゾウ、チョウジ

解説

- 生薬は、漢字で効率的に覚えられます。たとえばジャコウ（麝香）は「鹿を射る香り」と書きますが、オスのジャコウジカの腹部にある香囊から得られる分泌物です。いわゆる「ムスク」のことで、オスがメスを射止めるための香りだと言われています。ジャコウはアロマ効果により気の流れを良くすることで、**緊張や興奮を鎮める**作用があるとされます。
- 香りのあるものは気を巡らせる作用を持つものが多く、ジンコウ（沈香）も香木のひとつです。ジンコウは「沈む」という漢字から**鎮静作用**を思い浮かべると良いでしょう。
- レイヨウカク（羚羊角）は、サイカレイヨウというカモシカの**角**で、**緊張や興奮を鎮める**作用があるとされます。リン酸カルシウムが主成分ですが、カルシウムを含む生薬は鎮静作用を持つものが多くあります。
- ゴオウ（牛黄）はウシの胆石を基原とし、昔から金より貴重な生薬として知られています。水戸黄門さまが印籠の中に入れて持ち歩いていたというエピソードがあり、**緊張や興奮を鎮め、血液循環を促す**作用があるとされます。黄門さまも道中で緊張や興奮を鎮めるのに使用していたのかもしれませんが。
- リュウノウ（竜腦）も昔から香料として使われてきました。**樹脂**を加工した生薬で、**中枢神経系の刺激作用による「気つけ」**の効果が期待されます。